

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【めざす学校像】

- 大阪府初のエンパワメントスクールとして、これまで箕面東高校が取り組んできた「生徒が主役」の教育を基盤とした実践をさらに発展・拡充し、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校をめざす。
- 教職員一同が、生徒一人ひとりの教育に全力を注ぐことにより、「よい人材に入ってもらうのではなく、よい人材に育てる」学校をめざす。

## 【めざす生徒像】(アドミッションポリシー)

- チャレンジ精神にあふれる生徒
- 自分の力を人や社会のために役立てる気持ちの強い生徒
- 規律を守り、学校生活を充実させたい生徒

## 2 中期的目標

## 1 学び直しとしての「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立

- (1) エンパワメントスクールの理念である社会人として必要な「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む。
- ア 1年次、国数英は30分授業(モジュール授業)を毎日継続することにより、効率的に学力向上を図り基礎学力の定着を実現する。
  - イ 国数英は、3年間習熟度別授業を行い、一人ひとりに応じた学習を進め、得意科目の伸長、苦手科目を克服することで学ぶ意欲を喚起させる。
  - ウ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を踏まえて、タブレット・電子黒板等のICT機器活用やステップ分けしたドリル教材の活用により、わかりやすい授業の実現と達成感を自覚することで、学習意欲を高める。
  - エ 教科の枠を越えて学習指導について研究協議を行い「わかる授業」のための教材開発と授業方法の改善を図る。
  - オ S Jプラン(スーパージャンプ):学び直しの後、チャレンジ精神から高い学習意欲を持つ生徒に対して、進学向け補習・講習を通じて支援を続ける。
- ※授業アンケートにおける、生徒の意識2項目の肯定的回答率80%以上(H31年度)をめざす。(27年度:76.2%、28年度:74.8%)

## 2 希望進路実現のためのキャリア教育の発展

- (1) 「正解が1つではない課題」に対して3年間取り組むことで現代社会に通用し、貢献できる人材を育成する。
- ア 「産業社会と人間」「総合的学習の時間」「エンパワメントタイム選択科目」など『エンパワメントタイム』とし、情報編集力を高める。
  - イ 『エンパワメントタイム』を通じてコミュニケーション力や社会人基礎力を身につける。
- (2) 希望進路実現するための3年間を見通した計画的なプログラムを策定し、最終的には納税者となれることを図る。
- ア 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、的確な進路選択力を育成する。
  - イ 入学から卒業・進路実現を見通したキャリア教育を計画的に推進する。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「キャリアガイダンスは進路決定に役立ちましたか」に対する肯定率80%をめざす。(27年度:71.5%、28年度:77.3%)
- ※卒業時の進路未決定率10%以下(H31年度)をめざす。(27年度:18.4%、28年度:12.4%)

- (3) 箕面東版デュアルシステムの取り組みを充実させる。

## 3 生徒指導と相談体制の充実

- (1) 厳しく温かみのある生徒指導の充実
- ア すべての教育活動を通じて、規範意識の育成と果たすべき役割を自覚するための指導を実践する。
  - イ 生徒の自主的活動の支援を充実させ、学校への帰属意識や連帯感を育成する。
  - ウ 教員間でのコミュニケーションを密に行い、生徒情報の共有化を深め、中退防止につなげる。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「ルールを守っている」の肯定率85%以上(H31年度)をめざす。(27年度:77.7%、28年度:84.4%)
- (2) 不登校生、課題のある生徒、再チャレンジなど多様な生徒への学校定着と自己実現を図る環境を整える。
- ア 各学年団ごとに支援教育コーディネータを配置し、個別の支援計画を作成して、進路実現を図る。
  - イ 居場所としての「めいぷるカフェ」を開設し、NPO法人とも連携し、生徒の居場所活動に取り組むことにより、不登校生徒の防止を図る。
  - ウ SSWを活用しながら生徒支援委員会を中心に、支援学校や子ども家庭センターなどとの外部連携を強化する。また、教育相談や支援に関する研修会・事例研究会を頻繁に開催し教員のスキルの向上を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断の「自分の居場所がある」に対する肯定率85%以上(H31年度)をめざす。(27年度:75.9%、28年度:82.5%)

## 4 エンパワメントスクールとしての広報活動の充実

- (1) 中学校・中学生への情報発信と広報活動の充実。
- ア 学校ホームページの充実
  - イ 中高連絡会、中学校訪問、オープンスクール、公開授業を積極的に実施し、本校エンパワメントスクールの理解と信頼を獲得する。
  - ウ 学校パンフレットを刷新し、中学3年生向け広報誌「みのひがレター」を発行し、本校エンパワメントスクールの教育内容への理解を深める。
- (2) 地域の教育資源を活用しつつ、本校の教育システムの理解を深めるための情報発信を展開する。
- ア エンパワメントスクール展を外部会場で開催する。
  - イ エンパワメントタイムの授業等で、地域住民との連携を充実・発展させる。
- ※本校HPの年間アクセス数増。オープンスクール参加者数の増員。地域住民の参加者数増。
- (3) 大阪府内外へエンパワメントスクールの素晴らしさを発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学校に対する意識】</b> すべての「学校に対する意識に関する項目」のうち肯定的回答の平均値</p> <p>生徒*73.4%(昨年度ES生徒*69.9%) 保護者*79.2%(昨年度ES保護者*76.9%)</p> <p>○(3)箕面東への入学が希望通りである 生徒…肯定的86.1% 昨年度ES生徒…肯定的81.8%</p> <p>○(4)学校生活は楽しい 生徒…肯定的57.3% 昨年度ES生徒…肯定的52.6%</p> <p>(こんなものだと思う生徒26.9% 昨年度ES生徒26.0%は含まず)</p> <p>(保護者1・2・3) 保護者…肯定的72.2% 昨年度ES保護者…肯定的74.2%</p> <p>○(5)友人関係について 生徒…肯定的87.3% 昨年度ES生徒…肯定的91.2%</p> <p>○(20)現在選んでいる選択科目について(満足度) 生徒…肯定的80.7% 昨年度ES生徒…肯定的78.1%</p> <p>○(29)エンパワ選択科目について(力や個性の伸長) 生徒…肯定的74.1% 昨年度ES生徒…肯定的69.8%</p> <p>○(35)自分の後輩や将来の子どもに対して箕面東に行かせたい。保護者40知人の子どもに勧めたい。</p> <p>生徒…肯定的55.0% 昨年度ES生徒…肯定的45.9%</p>	<p>第1回学校協議会</p> <p>平成29年6月16日(金)</p> <p>・本年度のデュアルシステムには13名が参加していると報告があった。毎週火曜日に1人でそれぞれ職場に行き働くのはしんどいが、縦のつながりなどができるのは素晴らしいこと。学校の中と外では生徒の様子が違うのでいい経験になるし、発表の場があ</p>

府立箕面東高等学校

保護者…肯定的 70.3% 昨年度ES保護者…肯定的 64.2%

→本校へは、ほぼ希望通り、または納得して入学しているが、2.4%の生徒が不本意入学であったと回答している。昨年度の不本意入学は4.0%であったので、エンパワメントスクールに対する中学校での理解が進んでいると考えてよいのではないかと。この数値が下がっていくように、続けて、本校の魅力を中学校へ発信していきたい。

→友人関係はおおむね良好であるが、学校生活について、あまり楽しいとは感じていない。保護者は、おおむね楽しく通っているととらえている。学校生活の楽しさについて、否定的な評価の生徒が15.8%であり、昨年度ESの21.4%から減少してきているのは良い傾向である。

→ESの選択科目に対する肯定的な評価が昨年度より高くなってきた。人数制限などがあって、あまり自由に選べなかったとの回答が9.2%あるが、昨年度ES生徒の11.2%からは減少傾向にある。自分の興味・関心・進路に合わせて自分の時間割を組むことのできる総合学科としての魅力を、学びなおしで力を引き出すエンパワメントスクールの中に位置づけることで、生徒の学びへのモチベーションを高く維持することができないだろうか。

→箕面東を後輩や子ども、知人に勧めたいの項目では、生徒の肯定的意見が昨年より10%程度、保護者の肯定的意見が6%程度上昇している。前述の「学校が楽しい」「選択科目の満足度」の上昇と合わせてみることで、本校の魅力が生徒や保護者に感じられていると考えたい。

**【生徒指導】** すべての「生徒指導に関する項目」のうち肯定的回答の平均値

生徒\*68.2% (昨年度ES生徒\*62.8%) 保護者\*85.0% (昨年度ES保護者\*83.4%)

- (32)頭髪指導 生徒…肯定的 51.7% 昨年度ES生徒…肯定的 45.5%
- (33)ピアス・化粧指導 生徒…肯定的 56.0% 昨年度ES生徒…肯定的 52.0%
- (34)遅刻指導 生徒…肯定的 72.2% 昨年度ES生徒…肯定的 65.4%
- (42)私は学校のルールを守っている 生徒…肯定的 84.9% 昨年度ES生徒…肯定的 84.4%
- (6)信頼できる先生 生徒…肯定的 40.6% 昨年度ES生徒…肯定的 38.8%
- (7)先生とのコミュニケーション 生徒…肯定的 74.0% 昨年度ES生徒…肯定的 74.6%
- (8)先生は気持ちをわかってくれる 生徒…肯定的 61.0% 昨年度ES生徒…肯定的 54.2%

→生徒指導に関しては、保護者は肯定的にとらえている。厳しく迫っている部分が評価されていると考える。  
→それぞれの具体的項目での生徒の肯定的意見の割合が上がってきている。その点を保護者は肯定的に評価しているのではないかと。また、生徒の多くは学校のルールを守っていると考えており、本校のアドミッションポリシーに掲げている「規律を守る」という意識が生徒に定着していると考えられる。ただ、保護者の中にも指導に対して理解を得られず、指導が難しい場面もある。生徒にも保護者にも、指導の趣旨と目的について丁寧に説明して理解を得る努力を続けていきたい。  
→「先生とのコミュニケーション」は一定とれており、「気持ちをわかってくれる」の値も昨年度より上がってきた。しかし、「信頼できる先生」の値は高くない。生徒への働きかけが有効になるように、チームとしての生徒指導に取り組み、生徒が話しやすい環境づくりと情報の共有化ができる体制をつくりたい。

**【学習指導等】** すべての「学習指導に関する項目」のうち肯定的回答の平均値

生徒\*80.4% (昨年度ES生徒\*73.2%) 保護者\*73.0% (昨年度ES保護者\*69.2%)

- (9)わかりやすい授業 生徒…肯定的 74.8% 昨年度ES生徒…肯定的 62.7%  
(保護者8) 保護者…肯定的 62.1% 昨年度ES保護者…64.7%
- (10)～(19) 学習内容の理解 生徒…肯定的 62.6%(理科)～86.7%(体育)  
国語 75.0% 数学 65.4% 英語 64.3%  
昨年度ES生徒…肯定的 57.2%(理科・ST理科)～91.3%(家庭)  
国語・ST 国語 69.4% (1年 67.1% 2年 71.7%)  
数学・ST 数学 61.9% (1年 75.8% 2年 47.8%)  
英語・ST 英語 65.9% (1年 61.6% 2年 70.3%)
- (22)家庭学習 全くしない 生徒…70.6% 昨年度ES生徒…72.6%
- (23)考查期間中の家庭学習 全くしない 生徒…19.6% 昨年度ES生徒…21.8%
- 教員 13 問題解決的な学習指導 教員…肯定的 63.8% (昨年 65.5% 2年前 70.0% 3年前 37.7%)
- 教員 14,15 参加体験型学習、グループ学習など学習形態の工夫改善  
教員…肯定的 89.4% (昨年 90.0% 2年前 89.2% 3年前 72.2%)
- 33 読書指導 教員…肯定的 34.8% (昨年 9.1%)

→「わかりやすい授業」について、生徒の肯定的な数値が大きく伸びた。授業での教員の工夫が成果を上げてきていると考える。一方、「参加体験型やグループ学習等の工夫改善」は教員の意識はとして一定位置付けられたものとなった。これが、生徒の「わかりやすい授業」に対する肯定的な評価に表れているのであろう。これからも「主体的・対話的な深い学び」に関する研修や研究授業の研究協議会、相互授業見学等に取り組む中で、教員集団としての授業力向上を図っていきたい。  
→問題解決型の学習指導についての教員の意識も、エンパワ選択科目として定着してきていたが、意識がやや下降気味なのが気になる。  
→「学習内容の理解」では、「国語」「数学」の値の伸びが大きく、モジュール授業の成果が出ていると考えられる。また、特に「国語」の値の伸びは、他教科も含めた今後の学力向上が期待できる。  
→「家庭学習」は7割程度の生徒が全くせず、この部分の改善ができれば、もっと生徒全体の学力が伸びるであろう。宿題を課す等の工夫や、S Jの取り組みに見られるように、学校で放課後に学習する習慣をつけることで、学力の伸長を図る効果が期待できる。  
→「読書指導」の値は大きく伸びた。魅力的な図書室の整備や朝学での取り組みが評価されていると考える。

**【進路指導】** すべての「進路指導に関する項目」のうち肯定的回答の平均値

生徒 79.5% (昨年度ES生徒 76.8%) 保護者 70.2% (昨年度ES保護者 66.4%)  
教員 88.9% (昨年度 85.0%)

- (28)キャリアガイダンス 生徒…肯定的 77.5% (昨年度ES生徒：肯定的 81.1%)  
教員…肯定的 93.6%(昨年度肯定的 85.5%) ←教員 26 系統的なキャリア教育

→昨年度に比べ、生徒・保護者・教員の肯定的回答の平均値が上昇している。  
生徒・教員に比べ保護者の値は低い、保護者の肯定的回答が70%を超えてきており、生徒に対する指導や生徒に伝えている情報が、昨年に比べ保護者に伝わってきていると思われる。通信やホームページ(ブログ)、メールマガジン等で、生徒の取り組みをさらに保護者に発信し、アピールしていきたい。  
→キャリアガイダンスについては、教員の肯定意識は高い(93.6%)が、生徒の肯定意識は77.5%である。生徒は進路によって自己実現ができていくか、という点に着目していく必要であろう。  
早い段階での進路への意識が、生徒の学びのモチベーションにつながることを期待したい。

るのでプレゼンの力も付く。  
・ESとして3年目なので、近隣の中学校にはESの特徴が浸透しているようだ。地域とのつながりが強いことは財産なので、継続してほしい。

第2回学校協議会

平成29年11月29日(金)  
・進路未決定者が減ったということが大変大きな成果である。  
・授業見学をして意欲を持って勉強をしている生徒が多いと感じた。授業のテーマが生徒と先生の間で共有されていて良かった。また、高校が楽しいという生徒の声が聞いて安心した。  
・体育祭、修学旅行などを使って仲間意識をもたせ、目標をもたすのは良いことだと思う。  
・みのひが展(箕面キューズモール)では、最近若い人が親と一緒に来ている。展示パネルの内容がおもしろいと思う。また、本校生の表情が良くなった地域の方々から声があがっている。  
・講義形式と実技形式があるが、実技形式ではどうしてもアンケート結果の評価が高くなる傾向がある。大学などではアンケートのために授業をしている先生もいると言われるが、この学校ではアンケート結果だけが、教員評価にならないようにしているので良い。また落ち着いているクラスの授業をもつ先生の評価が高くなる傾向があるとも言われることもあり、その先生の授業力を判断するには授業見学などしっかりしなければならない。

第3回学校協議会

平成30年3月2日(金)  
・里帰り(生徒が出身中学に帰り、現状報告すること)のは中学の先生も安心できる。  
・最近の生徒が熱心、授業も真摯に聞いている。今以上に外部連携で接点をもっとあるともっと良くなる。  
・笑顔のパンフレットもすごく地域では好評です。  
・箕東展等で生徒が会場にいて、生徒からの説明があるともっとわかりやすい。  
・研究授業のビデオを撮って研修をしていることを生徒に知らせることで「先生も頑張っている」とわかり、信頼感が出てく。  
・生徒たちが自分のスマホでも本校のHPを見ることで、生徒が学校全体に関心を持つことができるようになるのではないかと。

## 府立箕面東高等学校

→保護者のアンケート回収率は、45.7%と、昨年のES保護者37.6%と比べて大きく伸びた。しかし、その中でも「⑤よくわからない」への回答率の平均が、24.4%であり、生徒や学校への関心がやや低く感じられる。もう少し生徒や学校への関心を持っていただき、学校と保護者双方からの働きかけで生徒の成長を見守っていききたい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「学び直しとしての「わかる喜び」 学ぶ意欲を喚起する授業の確立」	(1)「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む ア 1年次国数英モジュール授業の充実 イ 3年間を見据えた習熟度別学習の実行 ウ ICT機器の授業への効果的活用 エ「わかる授業」を実現させるための組織づくり オ 家庭学習0からの脱却	(1) ア・国数英3教科を毎日1,2時間目に30分×3の授業とし、効率的に学力向上を図る。 イ・3年間を通じて、生徒一人ひとりに応じた学習を進められるよう、国数英3教科で習熟度別授業の計画し、実行する。 ウ・ICT機器を活用した研究授業、相互の授業見学、校内研修会を積極的に実施する。 エ・教科の枠を越えて組織された「チーム」で、「わかる授業」を実現させるための授業改善に取り組む。 オ 1年生において、家庭学習をする機会をつくる。	(1) ア・授業アンケートの授業満足度(質問8,9)75%(28年度:75.1%) イ・生徒向け学校教育自己診断の「わかりやすい授業」の肯定率65%以上(28年度:62.7%) ウ・教職員用学校教育自己診断におけるICT等の活用状況95%以上(28年度:90.9%) エ・研究授業ならびに授業改善研究協議を年回複数回実施(28年度:1回実施) オ・生徒向け学校教育自己診断における1年生の家庭学習時間が全くないの割合を半数以下(28年度:68.1%)	(1) ア・授業アンケートの授業満足度(質問8,9)は、第1回目で76.8%、第2回目で78.8%と目標値を大きく上回った。(◎) イ・3学年全体の「わかりやすい授業」の肯定率は74.7%と大きく向上した。(◎) ウ・多くの教員がICTの活用を行っている。また、教員相互の授業見学も盛んである。ただ教職員用学校教育自己診断におけるICT等の活用状況は87.2%にとどまった。(△) エ・研究授業を5回実施したが、単発で終わっている感がある。(○) オ・1年生の家庭学習を促すために各教科から宿題等を出したが、家庭学習時間が全くないの割合は73.2%と低下した。ただし、学校に残って学習する生徒もいる。(△)
2 キャリア教育の発展 希冀進路実現のための	(1)「正解が1つではない課題」に対して3年間取り組む (2)3年間を見通した計画的なプログラムを策定し、実行する (3)デュアルシステムの充実	(1)エンパワメントスクール完成期に向け、生徒たちに情報編集力を身に付けさせる。 (2)「企業関係者」「地域人材」の方々を、エンパワメントタムの講師に活用し、「本物に触れる授業」を実施し、キャリア教育の充実につなげる。 (3)・適正人数の受講生徒とニーズに合った事業所の拡充を図る。 ・デュアル生徒の発表会の充実をめざす。	(1)・生徒向け学校教育自己診断の「総合・産業社会と人間」の理解に対する肯定率80%以上(28年度:77.6%) (2)・生徒向け学校教育自己診断の「キャリアガイダンスは進路決定に役立つ」肯定率85%以上(28年度:81.1%) (3)・デュアル生徒の満足度(アンケート)、デュアル発表会の内容の向上	(1)「総合・産業社会と人間」の理解に対する肯定率は76.4%に留まった。ただし、「正解が1つではない課題」への教員の意識は高まり、双方向的授業が浸透している。(△) (2)20人以上の社長さんや多くの講師を招いたキャリア教育を展開したが、「キャリアガイダンスは進路決定に役立つ」肯定率は77.3%であった。(△) (3)デュアル生の満足度は91.7%と高い。デュアル発表会は2回行い、そのプレゼン力も高まっていた。(○)
3 生徒指導と相談体制の充実	(1)厳しく温かみのある生徒指導 ア「果たすべき役割」の自覚と「規範意識」の育成 イ 学校への帰属意識と連帯感の育成 ウ 中退防止への取組み  (2)多様な生徒の学校定着と自己実現を図る環境整備 ア 支援教育コーディネータによる支援教育計画の作成 イ 生徒の居場所活動による不登校防止	(1) ア・時期に応じた生徒指導(遅刻指導・自転車指導等)を展開する。 ・毎月行う全校集会で各分掌からその月の目標を伝え、生徒の自覚を促す。 ・新入生には宿泊学習を実施する。 イ・生徒主体の学校行事の発展・拡充で「生徒の成功体験」の場を増やす。 ・部活動加入率を上昇させる。 ウ・1年生に副主任を設置し、ポイント制の生徒指導の導入で教職員間のコミュニケーションが密にし、中退防止につなげる。 (2) ア・各学年に支援教育コーディネータを配置し、「高校生活支援カード」や「教育相談アンケート」を活用し、組織的に個別の教育支援計画を作成する。 イ・居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」の機能を拡充し、居場所作りと個別相談活動を両輪とした不登校・中退予防体制を確立する。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「ルールを守っている」の肯定率85%以上(28年度:84.4%) ・全校集会を毎月実施 ・宿泊学習の生徒アンケートで満足度8割以上 イ・体育祭の復活とその満足度(アンケートで8割以上) ・部活加入率55%。(27年度:40%、28年度:50%) ウ・中退率5%以下。(27年度:5%、28年度:6.85%) (2) ア・個別の教育支援計画作成達成率100%。(28年度:90%) イ・不登校率20%以下(27年度:27.8%、28年度:20.1%)	(1) ア・昨年より問題行動も少なく、生徒全体も落ち着いている。「ルールを守っている」の肯定率84.8であった。(○) ・全校集会では、分掌や教科などと連携しては毎月行った。(◎) ・1年生の宿泊学習ではコミュニケーションを高める研修も行い、生徒の9割以上が満足していた。(○) イ・体育祭には約130人の保護者も観戦に来校した。生徒の9割近くが体育祭に満足し、次年度の新たな発展に期待している。(◎) ・加入率はほぼ50%前後を推移した。例年より運動部員が多い。(△) ウ・中退率3.6%(ESのみは2.9%) 【1年生:11人、2年生:5人、3年生:0人、CS:4人】(○) (2) ア・対象者が昨年より倍増しており、個別の教育支援計画書の担任記入は終えてはいるが、保護者同意に至っていないケースも数件ある。(△) イ・めいぶるカフェの存在によって不登校予備軍の居場所が出来上がった。年度末の不登校者数67人で不登校率は3.72%である。ただし、NPOとの契約に時間がかかり、6月からの支援となった。(○)

## 府立箕面東高等学校

<p>4 エンパ ワメン トス クールの 充 実</p>	<p>(1) 中学校・中学生への情報発信 ア学校HPの充実 イ中学校連携の発展・拡充 ウ広報誌の充実、広報グッズの工夫</p> <p>(2) 地域連携の充実 アエンパワメントスクール展の開催 イ年2回の授業公開期間の実施 ウ地元の保育所等との連携</p> <p>(3) 大阪府内外への情報発信</p>	<p>(1) ア・時期に応じたニュースとエンパワメントスクール独自の取組みを広く発信する。 イ・オープンスクールの充実、中高連絡会の効果的開催、緊密な中学校訪問を行い、きめ細かい中高連携を進める。 ウ・エンパワメントスクールの教育内容を中心とした広報誌「みのひがレター」を、地元中学校の3年生全員に年2回配布する。 ・パンフレットなど広報グッズをより魅力的なものにする。</p> <p>(2) ア・地元箕面市の施設を利用しての「エンパワメントスクール展」を開催し、本校教育実践を広く府民に情報発信する。 イ・6月、11月のそれぞれ3日間の授業公開を実施。 ウ・保育所との食育や防災における連携を行う。</p> <p>(3) エンパワメントスクールの素晴らしさを大阪府内外の教育機関に発信する。</p>	<p>(1) ア・HPの最新アップ数増ならびにアクセス数増。(28年度:50~100/日) イ・年間4回のオープンスクール参加中学生数420名。(28年度:396名) ・80校以上の中学校訪問(28年度:73校) ・里帰り生徒を20人以上 ウ・出身中学校の生徒が活躍していることがわかる教育内容の記事のレター年2回作成 ・新規パンフレット作成と配布</p> <p>(2) ア・入場者数400名(28年度:約300名)をめざす。 イ・授業公開日に日曜日を含むことで、中学生の保護者が参加しやすくする。また、本校の保護者の参加者数を30名以上にす。 ウ・「子どもクッキング」や「避難訓練」の実施。</p> <p>(3) 府内外の視察を積極的に受け入れる。</p>	<p>(1) ア・更新回数は昨年より増加し、4月から1月までのアクセス数は2万超である。(○) イ・4回の来校中学生の総数は412名で昨年より増加した。また、保護者を含めた来校者数は656人であった。(◎) ・全教員ではほぼ80中学校を訪問した。(○) ・里帰りの生徒数は30人を超えた。(◎) ウ・みのひがレターを2回(秋号と冬号)発行し、中学校に配布した。(○) ・4月早々には新規パンフレットを完成させた。生徒の笑顔の写真が好評で増刷予定。(◎)</p> <p>(2) ア・ES展を箕面キューズモールで10/28~11/3に開催し、多数の来場者に本校の学習状況を示す写真パネルを見てもらった。(○) イ・日曜日の公開授業で中学生やその保護者35人が来校した。また、公開授業日6日間の本校保護者も昨年より増加し、29人となった。(○) ウ・本校生が園児と一緒に調理をする「子どもクッキング」大好評で2回実施済み、また園児を避難場所である小学校に連れ行く避難訓練も実行した。(◎)</p> <p>(3) 教育委員見学2回(岡部氏と良原氏)、奈良県の生徒指導担当見学1回、大学教授の見学1回</p>
--	--	--	---	---